学びの風便り

リーディングスクール通信 31　R6.11.11

発行：松本市教育委員会　教育研修センター

特集！学びの改革のあゆみ　中山小学校・開智小学校

中山小学校　一人ひとりが自身の願いを実現できる学校づくり

リーディングスクール２年目の中山小学校では、生活科・総合的な学習の時間を核として「自ら探究的に学ぶ子どもを育む授業のあり方」を模索してきました。「探究」といえば、やはり生活・総合的な学習の時間を思い浮かべる方も多いと思いますが、中山小学校では探究「的」という言葉に象徴されるように、教育課程の「的（まと）」として、子どもたちが探究していくことができるような仕掛けを絶えず問い続けています。

この取組みの一つとして、高学年における算数の「学び方選択授業」があります。一人で自分のペースで学びたい子、友達と気軽に相談をしながら学びたい子、先生のサポートを受けながら基礎的な理解を進めていきたい子などが、最も理解が進む学び方を自分自身が選択できるよう、子どもの学び方を変えています。

なんとなく気分的に学び方を選ぶことは簡単ですが、「自身にとって最も有効な学び方を選択する」ことは思った以上に難しいことです。なぜならば、適切に選択をするためには、適切な自己理解・自己評価が伴うからです。適切な自己理解・自己評価ができる子どもたちになるために、本年度の中山小学校では、１時間の授業や単元、学習のまとまりの中で行われる「振り返り」の在り方を研究の重点に掲げ、問い直してきました。その結実として学び方を自身で選択することができる子どもたちの姿があると考えられます。

別の日に、何人かの子どもたちにインタビューすると、次のような答えが返ってきました。

Ｑ　算数の授業のように、学び方を選ぶことできるよさは何ですか。

Ａ　みんな一斉で授業をすると、わからないことがあったときに聞きづらいけど、今みたいな形だと、友達や先生に聞きやすくて、安心して授業を受けられることだと思います。

Ａ　自分のペースで勉強できるので、内容がわかりやすくなりました。

Ａ　場所も自分で選べるから、黒板が近くなってわかりやすいです。

Ａ　算数が得意な人は、自分がわかりたいことを自分のペースで進められる。やる範囲を自分で決められるから気持ちがいい。

Ａ　自分で目標を決めて、自分でどうするか決めて、目標に向けて頑張るっていうことをやっていることは、大人になっても大切なことだと思う。

インタビューを受けてくれたすべての子どもたちは、この中山小学校での改革を肯定的にとらえており、また、この改革を通して自分の生き方に関わる素養を培っていることがわかりました。

１２月には「中山っ子（生活・総合）」発表会が地域の方、保護者を招いて開催されます。本年度の新しい取組みです。先生方は今も、その形を模索しています。子どもたちは、この１年間で何を感じ、どのように自己の世界を広げ、何を語るのでしょうか。楽しみで仕方ありません。

開智小学校　　「これからの学校のあり方」をみんなで考える

学びの改革パイオニア校２年目の開智小学校では、「自ら探究する子ども～子どもと教師が協同してつくる学びを目指して～」をテーマに学校づくりを進めています。今年度は昨年の取組の振り返りから「教師が子どもに委ねていくことで子どもの学びが豊かになっていく」という考えを共有し、全校で実践に挑戦しています。

１０月１０日、市教委実施研修「風越学園岩瀬直樹先生と学ぶ探究ゼミ」に参加している３名の先生が、軽井沢風越学園を訪問しアウトプットデイの様子を参観し、次のような振り返りをされました。

「子どもたちと何を大事に日々過ごしていけばよいのか、教師のあり方やそのための環境整備をきちんともう一度考えていきたいと思います。公立学校でできること、私ができること、またそれぞれの良い面を取り入れてできればいいなと思っています。」（Ｙ先生）

「公立の自分の学校でどうすればこの様な子どもたちの姿を見ることができるのでしょうか。子どもの声を『聞く』ことを手掛かりに考えてみたいと思います。」（Ｉ先生）

「参観を通して生まれた先生たちの『問い』を全校の先生たちと共有したい」と考えた探究コーディネーターのＥ先生は、職員研修を企画しワークショップを行うことにしました。

研修では、初めに Ｅ 先生から風越学園のアウトプットデイの様子を紹介し、先生たちがそこから得られた気づきを出し合いました。そのうえで、参加された先生たちの感想を紹介し、「なぜ公立学校（開智小）で、このような学びができないのか」という問いについて考えを出し合いました。

・自分が受けた教育しか知らない。・教師は任せようとする覚悟が足りない。・できないと思っている。・全員一定以上の基礎学力が前提で活動が成り立つと思うから。・子どもたちが少人数、一人で学びを進めるための基本的な学力が心配。・お金の問題。・人手が足りない。・一人で見る子どもの数が多い。・教員数が足りない。・時数制約。・時数の自由度が低い。・カリキュラムの問題。・教科書に縛られる。・保護者理解が難しい。・知識を身につけることに目が行きがち。

このように『教師の意識』『子どもの力』『お金・時間・環境』『カリキュラム』等が、「できない理由」としてあげられました。その上で、これらの課題の中でも「開智小でできそうなことはどんなことか」と考え、アイディアを出し合いました。

・教科担任制。・算数、自由進度学習。・これ！と決めた内容だけ教材を作ってみる。・テストを減らして縛られない環境を増やす。・クラブや児童会をやめて、総合の時間にする。・行事をやめる（運動会、音楽会、マラソン大会）学年の行事のみ。・やりたいことを選択式にして、地域や松本大学の人にボランティアに入ってもらう。１クラスの人数を２０人以下にする。学級数の増加。・クラスの枠を無くして、連学年でテーマを決めて、生活科や総合のプロジェクトを考える。・子どもの声を聞く。・教師の意識改革。・自分たちでやり方を考えてやって、失敗してもいい時間をつくる。・やりたいことを選ぶという経験を積み重ねる。・探究的な学習を多くする。・気楽にフィードバックできる機会を作って積み重ねる。話すことだけをアウトプットの目標とせず、作品や写真なども良しとする。・行事のある部分を子どもたちの実行委員形式で行う。行事を自分たちで考える。

このように『教科学習のやり方』『減らすもの』『教員増・ボランティア活用』『自分たちで行事を考える』『アウトプットとフィードバック』などにかかわり、先生たちから、柔らかなアイディアが生まれてきました。

開智小では、先生方で話し合ったことをもとに、今後、重要度や緊急性の高低により取組むことを決め、動いていきます。これまでの学校のあり方を問い直す、パイオニア校２年目の開智小学校は、子どもたちの主体的な学びを実現するために、新たな挑戦を続けていきます。